

オリガミアンだより

第82号

2022年12月5日発行

12月の練習日

12月6日と12月20日に行います。
クリスマス用に縦の木、トナカイ、サンタ
クロース、正月用に干支の「卯」を練習しま
しょう。
練習には名札とスリッパもお忘れなく。



アイデア対決 全国高専ロボットコンテスト(ロボコン)2022 近畿大会 2022・11・13 NHK

学生たちが作った紙ヒコーキ(折り紙の仲間)を自作のロボットが飛ばし、テーブルや筒の中に着陸させて点数を競った。見ていて兵庫の大学や高専にも折り紙クラブを立ち上げて欲しい、と思った。全国の大学では折り紙研究会が続々つくられており、コンピューターを活用したユニークな作品を生み出している。

紙ヒコーキは男の子たちの間で人気ナンバーワンの折り紙。今年夏休みにやった子ども折り紙教室で、ちよっと口を滑らせたら「作って、作って」と追いかけ回された。ネットで「紙ヒコーキ」「よく飛ぶ」などと検索すると驚くほど多くの紙ヒコーキが紹介されている。「興味のある方はぜひ覗いてみてください。滞空時間の長いもの、スピードの速いもの、などさまざまな紙ヒコーキが飛び交っている。」



幻の白いたぬき



白いたぬきは1万匹に1匹しか出現せず、非常に珍しいと言われています。見かけると幸せになれるそうですので、ささやかな幸せのお裾分けをさせていただきます。この子は広島県の宮島に生息。結構、人慣れしていてテレビカメラの前までやってきました。2022年11月25日 8ch.
「坂上どうぶつ王国スペシャル」で放映

お正月は「回文」で遊ぼう

日本語で言うと…



上から読んで下から読んで…。皆さんも回文をたくさん知っておられることと思います。折り紙とは関係ありませんが、お正月も近いので手許メモから拾ってご披露します。あくまでも言葉遊びです。表現に不穏当と感ぜられるものがあったとしても、きちんと意味が通り、しかも面白いものを選んでいきます。特定の個人や団体を傷つける意図は全くありませんのでご承知おきください。純粋に回文として味わってください。考案者の方がこれを目にされた時は無断使用をお許しください。

回文の代表的なものとしては「竹藪焼けた 新聞紙 磨かぬかがみ ダンスが済んだ 私負けましたわ なるとを取るな」などがあり、昔、遊んだ方も多いのでは？

回文ではないですが、人の姓、地名などにも同じようなものがありますね。ついでですので思いつくものを書いておきます。乾 糸井 田畑 棚田 吉都紀 谷田 玉田 岡尾 井伊 佐々 高田 真島 志布志
回文をネットなどで検索すると、それはもう傑作としか言えないようなものが多数見受けられます。

痛い！ 阪神敗退(いたい はんしん はいたい)

神主も死ぬんか(かぬぬし も しぬんか)

揉めるメモ(もめる めも)

目立つ奴ダメ(めだつ やつ だめ)

大敵生きていた(たいてき いきて いた)

どうこなす仲人？(どうこなす なこうど)

世界遺産、関西生かせ(せかい いさん かんさい いかせ)

居並ぶ紳士寄進渋らない(いならぶ しんし きしん しぶらない)

いかん原子炉、炉心限界(いかん げんしろ ろしん げんかい)

つまんねえ年末(つまんねえ ねんまつ)

熱・咳の季節ね(ねつ せきの きせつね)

勘違い、わははは、ハワイが沈下(かんちがい わははは はわいが ちんか)

痛い整体(いたい せいたい)

作るか光る靴(つくるか ひかる くつ)



西暦79年にヴェスヴィオ火山の噴火によって滅亡したヘルクラネウムの街の遺跡に「Sator Arepo Tenet Opera Rotas」という回文が刻まれている事から、回文の起源は少なくとも西暦79年またはそれ以前まで遡ることができる。英語では「Madam, I'm Adam」(マダム、私はアダムです)のような例が知られている。日本でも言葉遊びとして古くからいくつもの例があり、小瀬渺美は安政期に新潟の俳人が刊行した回文俳諧集を挙げて、当時から日本で回文の文化が普及していた可能性を指摘している。日本語の古典的回文としてよく知られているものを一つご紹介しておこう。五七五七七の短歌形式になっている。

長き夜の 遠の睡りの 皆目醒め 波乗り船の 音の良きかな